

エマーソン ガソリン 携行缶

取扱説明書

この度は、「エマーソン ガソリン携行缶」をお買い上げ頂きまして、誠にありがとうございます。
本製品を正しく安全にご使用頂くために、この取扱説明書をよくお読み下さい。
また、読み終わりましたもこの取扱説明書を大切に保管のうえ、必要の都度お読み返し下さい。

■製品仕様

品番	呼容量	最大容量	本体サイズ	本体重量
EM-276	5L	5.4L	長さ408×幅244×高さ114mm	1.6Kg
EM-277	10L	10.9L	長さ408×幅244×高さ186mm	2.1Kg
EM-278	20L	21.9L	長さ507×幅307×高さ216mm	3.3Kg

⚠ ガソリンを給油する際はガスだまりが必要です。
呼容量以上で使用しないで下さい。

付属品(共通)	・内容物表示ステッカー ・給油ノズル(収納袋付き) ※給油ノズル伸縮サイズ155mm～355mm
鋼板の厚さ	0.8mm
材質	本体:亜鉛メッキ鋼板

内容物表示ステッカー	
ガソリン	混合油
軽油	:
灯油	:

■専用消耗部品(別売)

EM-127A<5&10L共通> EM-128A<20L専用>  銅体モール	EM-268B<共通>  パッキンセット (ノズル・アルミキャップ)	EM-268C<共通>  エア調整ネジ	EM-128D<共通>  給油ノズル	EM-268E<共通>  アルミキャップ
---	--	--	---	--

■ガソリン等の保管・取扱いに関する注意事項

⚠ ご使用になる前に必ずお読み下さい。

ガソリンの危険性について

ガソリンは気温が-40℃でも気化し、小さな熱源でも引火・爆発的に燃焼する物質です。

※軽油は+40℃で気化します。

容器について

消防法により定められた「金属缶」を使用して下さい。右のようなラベルが貼られた携行缶は、消防法令の基準に適合するものです。

※汚れ、剥がれにより認証ラベルが確認できない場合、給油を断られる場合があります。



UN基準型式承認済
IMDG CODE 6.1



試験確認済証
1.0 - 250
危険物保安技術協会

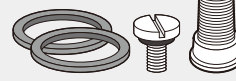


ポリ缶禁止

ガソリン携行缶の取扱いについて

使用時には取扱説明書をよく読み適正な取扱いをして下さい。
パッキンの劣化、キャップの締め方の不備など、給油口や給油ノズルからの漏れによる危険物の漏えい事故の報告があります。

※劣化した部品は新しいものに交換しましょう。



従業員のいるスタンドで購入

セルフ式のスタンドで
ご自身で給油することは
禁止されています。



給油中はエンジン停止!!

ガソリン携行缶を扱う際は、
周囲でタバコを吸うなど、
火気の使用は絶対にしない。



火気厳禁

直射日光・高温注意!!

ガソリン携行缶は直射日光
を避け風通しのよい場所で
保管する

※変形・破裂・
火災の原因!



火災予防条例あり

ガソリン
最大貯蔵量
40ℓ
未満



静電気注意

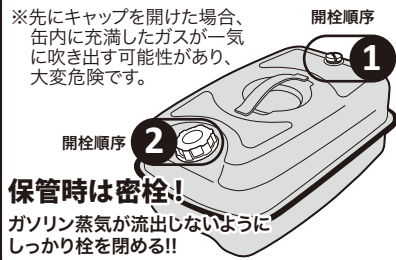


引火・火災の原因!

エア調整ネジを活用!

開栓時は一気にキャップを開けず
エア調整ネジで「ガス抜き」を!!

※先にキャップを開けた場合、
缶内に充満したガスが一気に
吹き出す可能性があり、
大変危険です。



保管時は密栓!

ガソリン蒸気が流出しないように
しっかり栓を閉める!!

■安全上のご注意

- ・本製品を正しく安全にご使用頂くため、ご使用前に、この「安全上のご注意」を必ずお読みになり、よく理解したうえで正しくお使い下さい。
- ・この取扱説明書は大切に保管のうえ、ご使用中に分らなくなった時など、必要な都度、お読み返し下さい。また、他の人が使用する場合も同様です。
- ・ここに示す注意事項は、本製品を正しく安全にご使用頂くためのもので、火災、ケガなどを未然に防止するものです。

■使用上の注意と警告マーク

⚠ ご使用になる前に必ずお読み下さい。

⚠ 警告	この表示を無視して誤った取扱いをすると、 人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容 を示します。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った取扱いをすると、 人が損害を負う可能性が想定される内容及び、物的損害の発生が想定される内容 を示します。

■ご使用前の注意

⚠ ご使用になる前に必ずお読み下さい。

⚠ 警告	・本製品は、ガソリンの運搬及び保管に使用するものです。本来の目的以外で使用しないで下さい。 ・ガソリン携行缶への給油は、法令によりセルフ式のガソリンスタンドでご自身で給油することは出来ません。従業員のいるガソリンスタンドで給油を依頼して下さい。 ・周囲に火気が無い事を十分確認して使用して下さい。 ・ナイロンやポリエステルなど、静電気が発生しやすい服装で作業をしないで下さい。また、ご使用になる前に素手で静電気除去シートや車の金属部分に触れて静電気を除去して下さい。静電気の花火が原因となり、引火、爆発の可能性があり大変危険です。 ・本製品に投げる、落とす、叩くなどの衝撃を与えないで下さい。強い衝撃が加わった場合は、内容物の漏れ、各部の変形や破損などを確認して下さい。 ・本製品にサビや劣化、変形、破損がみられる場合は、缶内のガソリンを抜き取り、直ちに使用を中止して下さい。そのままご使用になりますと引火の可能性があり大変危険です。 ・給油ノズル、モール、パッキンは消耗品です。劣化や破損が見られる場合は必ず交換して下さい。漏れの原因となります。 ・誤った使用方法や、火災、地震、水害、落雷、その他天災地変、公害、塩害などによる故障や損傷については、いかなる責任も負いかねます。 ・本製品の分解や改造をしないで下さい。
⚠ 注意	・市町村の火災予防条例により、ガソリン40ℓ以上、もしくは軽油200ℓ以上を保管する際は、保管場所の防火基準があり消防機関への届け出が必要です。 ・キャップや給油ノズルの開閉時に指をはさまないよう、十分注意して下さい。 ・本製品にガソリン・灯油・軽油・混合油以外の物は入れないで下さい。サビや劣化、破損の原因となります。 ・本製品にガソリンを給油する際は、缶内の圧力変化を緩和するためにガスだまりが必要です。呼容量以上で使用しないで下さい。 ・本製品に呼容量いっぱいガソリンを給油すると、油面が給油口に近い位置になるため、ガソリンスタンドによっては、呼容量まで給油していただけない場合があります。

■注油・給油時の注意

⚠ ご使用になる前に必ずお読み下さい。

⚠ 警告	・直射日光や、その他の原因でガソリン携行缶が高温になっている場合は、エア調整ネジやキャップを絶対に開けないで下さい。内容物の噴出の恐れがあり大変危険です。本製品を日陰の風通しの良い場所に移動し、常温まで下げてからご使用下さい。 ・エア調整ネジやキャップを開ける際は、平坦な場所で給油口を上向きに置き、内容物がこぼれない事を確認して下さい。 ・本製品から給油対象物に給油する際は、必ずエア調整ネジをゆっくりとゆるめて減圧し、缶内のガス(気化したガソリン蒸気)を抜いてからキャップを開けて下さい。先にキャップを開けると缶内に充満したガスが一気に吹き出す可能性があり、大変危険です。 ・自動車他、動力が付いているものに給油する際は、動力を停止した状態でご使用下さい。
⚠ 注意	・本製品への給油後は、付属の内容物表示ステッカーを目立つところに貼付け、入れ間違いのないよう注意して下さい。 ・本製品から給油対象物に給油する際は、給油ノズルがキチンと確実に取り付けられている事を確認し、万が一、こぼれても作業や、周囲の人、物などが汚れたり、危険を及ぼさないよう十分注意してからご使用下さい。 ・本製品から給油対象物に給油する際に、本体とモールの間にガソリンなどの内容物が入り込む場合があります。ご使用後は汚れやこぼれた内容物をウェスなどで必ず拭き取って下さい。時間が経つと、こぼれた内容物を「漏れ」と勘違いされる場合があります。 ・給油ノズルをご使用の際、伸縮時に強く引っ張らないようご注意ください。破損の原因となります。 ・本製品から給油対象物に給油する際、勢いよく注ぐと吹きこぼれる場合があります。給油ノズルの角度を調節し、しっかりと本体を持ち、注意しながら給油して下さい。

<ガソリン携行缶への給油方法>

①平たんな場所で給油口を上向きに置く

②エア調整ネジをキチンと閉める

③キャップを外す

引きながらゆっくり給油

④呼容量内で給油

※缶内の圧力変化を緩和するためにガスだまりが必要です。

⑤キャップをキチンと閉める

内容物表示ステッカー

ガソリン	混合油
軽油	:
灯油	

内容物の入れ間違いが無いよう本体の目立つところに貼りましょう。

<ガソリン携行缶からの注油方法>

①平たんな場所で給油口を上向きに置く

②エア調整ネジをゆっくりとゆるめる

③キャップを外す

④給油口にノズルをキチンと取付ける

⑤ノズルの角度を調整し、しっかりと缶を持って注油する

⑥キャップをキチンと閉める

⑦エア調整ネジをキチンと締め直す

⑧使用後の給油ノズルはよく乾かしたのち、付属の収納袋に入れて保管

■運搬・保管時の注意

△ ご使用になる前に必ずお読み下さい。

△ 警告

- 内容物の有無に関わらず、雨や雪のあたる場所や湿気の高い場所を避け、日陰の風通しの良い場所で保管して下さい。サビや劣化の原因となります。
- 内容物の有無に関わらず、直射日光や火気の近くなど高温になる場所を避けて保管して下さい。また、気温差の大きな場所には置かないで下さい。変形や破裂、火災の原因となります。
- 直射日光の当たる物置き内やプレハブハウス内は、外気温より温度が上昇する場合があります。
- 車両の室内やトランク内は直射日光により高温になる場合があります。
- ガソリンを携行する際は、直前にエア調整ネジを緩めて缶内の圧力を下げてから、しっかりと確実に締め直して下さい。また、キャップが確実に締まっている事も確認して下さい。緩みがある場合、漏れや汚損の原因となるだけでなく、気化したガソリンに引火する可能性があり大変危険です。
- 内容物が入ったガソリン携行缶を車両で携行する際は、必ずポリエチレンの袋や受け皿などを使用して、水平かつ動かないようにしっかりと固定されている事を確認して下さい。特にトラックの荷台に乗せる際は、ゴム製のすべり止めを使用するなど、携行缶が動かないようしっかりと固定して下さい。漏れや破損、汚損の原因となります。
- 内容物が入った状態で保管する際は、キャップ、エア調整ネジを確実に締め、平坦な場所で保管して下さい。漏れの原因となるだけでなく、気化したガソリンに引火する可能性があり大変危険です。
- 保管の際は、金属製の棚や地面に直接置いて静電気がたまらないようにして下さい。ダンボールなどの絶縁体のうえに置くと、ガソリンに静電気がたまりやすくなります。静電気によって引火する恐れがあり大変危険です。
- 保管の際は、周囲に火気が無い事を確認し、時々、エア調整ネジを緩めて、缶内の圧力を調整して下さい。内圧の変化により変形の原因となります。
- 空の状態では保管する場合は、キャップ、エア調整ネジをゆるめて下さい。また、再度使用する場合には、ガソリン携行缶本体、各々の部品に劣化や破損が無い事を十分に確認して下さい。

△ 注意

- 長期保管はガソリン、軽油、灯油の劣化につながるうえ、給油対象物に悪影響を与える恐れがあります。適切に保管したとしても6ヶ月以内をめどにご使用下さい。詳しくはガソリン、軽油、灯油のメーカーにご確認下さい。

<運搬方法>

①平たんな場所で給油口を上向きに置く

②エア調整ネジをゆっくりとゆるめる

③エア調整ネジをキチンと締め直す

④キャップをキチンと締め直す

⑤平たんな場所にポリ袋と受け皿を使ってしっかり固定する

<保管方法>

①ガソリン蒸気が流出しないようにしっかりと栓を閉める

②平たんな場所で給油口を上向きに置く
△金属製の棚や地面に直接置いて帯電させないこと

③ガソリンは揮発性が高いので内圧の変化からガソリン携行缶が変形する恐れがあります。時々、エア調整ネジをゆっくりとゆるめ、缶内の圧力を調整して下さい。

静電気注意

火気厳禁

直射日光・高温注意！！

ガソリン携行缶は直射日光を避け風通しのよい場所で保管する

※変形・破裂・火災の原因！

火災予防条例あり

ガソリン
最大貯蔵量
40ℓ未満

■万が一、事故や損害が発生した場合について

万が一、本製品の欠陥が原因となり事故や損害が発生した場合は、直ちに発売元までご連絡下さい。また、原因の究明にあたって、下記のような必要最小限の情報のご提供や、現品の回収をお願いする事があります。調査前に処分されないようお願い致します。

- ・事故の詳細
- ・損害のあった物の写真
- ・使用状況
- ・医療機関の診断書
- ・現品回収
- ・その他、事故や損害の状況に応じて必要な情報など